

NPO 法人流山市国際交流協会



NIFANEWS

発行: NPO 法人 流山市国際交流協会
〒270-0111 流山市江戸川台東 1-4 3F
国際理解サポートセンター内
☎ : 04-7128-6007
Email:nifa-support@bz04.plala.or.jp
http/nifa-home.sakura.ne.jp/

2020 東京オリンピック・パラリンピックを契機に、

流山が誰にでももっとフレンドリーな街になるよう



2020 東京オリンピック・パラリンピックまで 1 年少々、あちこちで形が見えてきました。ここ流山もオランダのホストタウンとして登録され、いくつかの競技で代表チームの事前合宿が予定されています。そして選手、関係者だけではなく、諸外国から当市を訪れる人達を温かく迎え入れる動きも活発になりつつあります。海外からの訪問者と自然に接したり、言葉を交わしたり、交流できれば素晴らしいこと。こうした機会、気運の醸成に NIFA も一役買っています。

NIFA は「外国人との接し方講座・オランダ文化、オランダ語講座」を開きました。流山市からの委託事業です。

全体は二部構成、最初は外国人ゲストのトーク。日本に来て自国との違いに驚いたこと、感心したことなどを披露してもらいました。「宗教上の理由で食べられる食物が手に入らず」困った、「生魚、生野菜を食べる」、「公の場でバッグの中を開けている」、「居酒屋の飲み放題」などに驚き、「東京では友達がなかなかできない」悩みなどが打ち明けられ、盆踊りや花火に感嘆されました。

短期間の滞在でも異文化に触れ、興味を惹くこともあれば、困ったことに遭遇することもあるでしょう。いずれの時にも誰もが気軽に声をかける空気ができれば、旅のよい思い出になるのではないのでしょうか。言葉の違いをカベとせず、思いやりの気持ちで接すれば「意はずから通じる」といった内容。



第二部はオランダの紹介。地理上の位置・広さ、国土作り、風車や花の栽培、スケート、フェルメールやゴッホに代表される絵画、日本語になったオランダ語など多岐に亘る説明に加え、「神は世界を創り、オランダ人は国を創った」、「チューリップの原産はトルコ」「首都アムステルダムとはアムステル川のダムのこと」などワンポイントの説明がスパイスになりました。

締めくくりはオランダ語の会話練習、「おはよう」(Goede morgen) 「こんにちは」(Goeden dag) 「ありがとう」(Dank u) 「はい、いいえ」(ja, nee) 他オランダの方を迎えた時に言えると便利な言葉を練習。息を吐く時に上あごをこするような、日本語にない発音に挑戦しました。

講師は、ニフェユスヨスさん(オランダ)、ゲストはロナ雨沼さん(フィリピン)、エミリージョーンズさん(アメリカ)、エカテリーナ足立さん(ロシア)、プラーバカーラ・シャムカタ・アップゲリさん(インド)、リチャード・アーノルドさん(ドイツ)、サジャーード・シディーウさん(オーストリア)。

2 月 2 日(土)に初石公民館で、3 日(日)に南流山センターで、それぞれ 20 名を超える参加者が約 2 時間の講座を楽しみました。

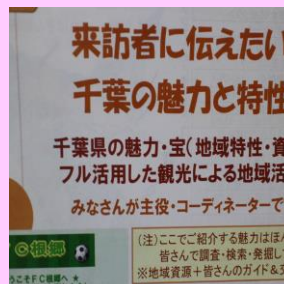


オリンピック、パラリンピックを支えます 通訳ボランティア養成講座受講レポート ～2～

● 今回の研修でパラリンピックについて、初めて知ったことはたくさんあります。例えば、聴力障害者は含まれないこと、車椅子バスケの障害の度合いを平等にする工夫、ゴールボールの応援マナー等々。ぜひ、調べてみてください。とても興味深いです。● そして、講座の表題である通訳ボランティアの講義には実際に二人の通訳士の方からそれぞれ「心構えとマナー」そして「国際大会と通訳ボランティア」について教えていただきました。また、専門講師によるロールプレイのクラスでは実際に使えるフレーズの入った台本を使って千葉県の街で、オリンピック会場で、異文化交流シーンでの会話を通訳する体験をしました。楽しみながらも瞬発的に通訳することの難しさを実感し、自分の勉強不足を痛感しました。● この他、異文化コミュニケーションの講義ではコミュニケーションに影響する要素として食文化を例にとり、「イスラム教徒と食事」について考えてみました。また、千葉県の観光についての講義では観光地として千葉県の魅力を知りました。

● なかなかイメージの掴めないオリンピック・パラリンピックボランティアですが、講座を受講してこの貴重なイベントに参加してみたいと思うようになりました。日本ゴールボール協会の方は「観戦者の少ないパラリンピックは、応援に来てもらうだけでも十分おてなしです！ぜひ来てください」と話していました。ボランティアに参加できる方もできない方も全席が満席になるようにみんなで観戦に行きましょう。2020年が楽しみです。

(2018年10月に受講 外国語講座事業部 湯浅志保さん)



相手との出会いを楽しみ、その心を表現しよう 「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」受講レポート

そろそろ東京オリンピックだし、外国からの来訪者も増えるだろうし、会話の教室を出て、実際に英語を使って何かできることがあれば、と少し本気になっていたところ、この講座の案内が舞い込み、半日のスケジュール、近い会場(生涯学習センター・エルズ)に惹かれ申し込んだところ運よく当選。主催は千葉県県民生活・文化課県民活動推進班。

12月1日(土)の午後、教室は幅広い年代、男女等しい参加者で埋まりました。

プログラムはまずビデオの視聴。業績不振にあえいでいた町の小さな日本式旅館が、助言を得て外国人を受け入れたところ大好評、人気旅館に変身したという実話。言葉は堪能でなくても、心から迎え入れる気持ちをもって接すること。普段の私たち日本人の食住をそのまま提供することが日本を訪れる人の興味や関心に合う、というのが主題。

第2部からは外国の方に接する時の実践的テーマについての講座。並び順でテーブルの前後3,4人のメンバーでグループワーク、そして参加者を前に発表する進め方。全員が発表しました。

第1ステップは、『コミュニケーション力を磨く』と題して、挨拶やスモールトークが相手との距離を縮めること、ジェスチャーや、絵、図を使った説明もコミュニケーションを円滑にすること、日本文化やマナーにも日頃から意識しておくことなどを確認。第2ステップは『知識や情報を駆使して問題解決する方法を学ぶ』時間。目的地までの行き方、電車などの乗り方を尋ねられた時、大切な物をなくしたりした外国人に出会った時の対応がテーマ。道案内の基本表現の他、地名などは書いて確かめるのも効果があること、大事な物を失くして慌てている相手には、落ち着かせる態度、言葉が大切なことなどを実践練習。

最後は『ボランティア・スピリッツについて学ぶ』時間。

この講座で学んだことをみんなで次の6項目にまとめました。

- 『● 相手を理解して相手の立場に立つ、● 日本の文化について予備知識を持つ一方、相手との文化の違いを尊重する、● 一期一会 私は日本の代表、● 自分から May I help you? ● 問題点確認のためのリピーター ● 余裕を持った対応』。

短時間の中に盛り沢山の内容でしたが、小気味よいテンポと笑いの絶えない、そして適度の緊張のある講座。修了後に受け取った(千葉県 外国人おもてなし語学ボランティア)登録証と、(May I help you? CHIBA)の缶バッジを見ながら、「何とかできそう」という感触を得て日の暮れたエルズを出ました。(西山 勝)





NIFAの人 ステフ ヴァン ラムーンさん

(オランダ出身・会員・イタリアンシェフ)



Mr. Stef van Lamoen



Q. オランダのどのようなところで過ごしましたか？

A. オランダは端から端まで車で4時間ほどの小さな国。私はアムステルダムから南東約1時間ほどの街フライメン(Vlijmen)で過ごしました。カントリーサイドでねぎ、ニンジン、じゃがいもなどの野菜を中心とした農業、酪農が盛んなところです。

Q. 私が流山に移ったのは1970年、当時は人も少なく、農家が多い田園の町でした。

A. そうですね、よく似ています。オランダは流山のよう起伏はありません。でも川や湖が多く、水が豊か、冬はよくスケートをしました。今は温暖化が進みあまりできませんが。ちょっと残念。

A. 今は都市化の一方、自然を大切にする動きも盛んになりました。

Q. オランダの人は、ワークアンドライフバランス等全体の調和を図ろうとする意識を大切にするようですね？

A. その通りです。

Q. ステフさんがイタリアンのシェフになるまでどのような経験をされたのですか？

A. 料理はオランダの学校で勉強しました。イタリア料理を選んだのは Grand Chef (総料理長) のお陰です。沢山影響を受けました。今でも友達です。ロンドンの三ツ星でフレンチも少し経験しましたがイタリアンが自分に一番合っていると思いました。そしてイタリアのレストランに電話して働き始めました。

A. イタリア料理も北と南ではスタイルも随分違うので両方勉強しました。

Q. 北と南でどのような違いがあるのですか？

A. 例えばミラノのような北ではバターやクリームを主に使います。南はオリーブオイル、トマト、バジル、モッツアレラなどが基本の素材です。

Q. イタリアにはどのくらい過ごされたのですか？

A. 三ツ星や二ツ星も入れて3年働きました。キッチンスタッフはどれもインターナショナルです。イタリアだ

けでなく、日本、アメリカ、フランス、イギリス、オーストラリアなどからの人が一緒に働き、私はその雰囲気が好きでした。日本人とは一番仲良しになりました。

Q. それで日本に来るようになったのですか？

A. はい、イタリアの店が東京の丸の内に店を出すことになって、一緒に来ることにしました。ここで2年、そのあと大阪のホテルで1年、京都のリゾートホテルのレストランで11年、そして流山に来て2年になります。

Q. オランダ、イタリア、日本料理の共通するところは何か？

A. シンプルさだと思います。イタリアンはパスタ、オランダはじゃがいも、日本は野菜、さかな等それぞれをシンプルに美味しい料理を作る点が同じです。刺身はシンプルでおいしい。

A. フランス料理は少し違います。Complicated(複雑)、ソースが大切ですが作り方が難しい。

Q. 日本の汁物のだしもシンプルですね？

A. そう、昆布と水でおいしくする。フレンチのソースは沢山の材料で作ります。この違いはあります。

Q. 反対にイタリアンと日本料理との違い、特徴は？

A. イタリアンはオリーブオイルが基本、パスタ、サラダ何にでも使います。

Q. 日本の味噌、醤油みたいなものですね。

Q. イタリアンの人気はどこにあるのでしょうか？値段、手軽さ？

A. 料理がlightということもあると思います。沢山食べてもそんなにお腹はもたれません。

Q. 確かにそうですね。ランチがフレンチだと午後は仕事ができない。

Q. 日本に来て衝撃を受けたことは？

A. 懐石料理です。味わい深さ、デリケートさ、見た目のお美しさなど、初めて京都で見た時は衝撃でした。ユネスコの遺産に登録されるだけのことはあります。

A. もう一つは地震、オランダにはないので今でもパニックになるくらい怖いです。♥料理のお話などありがとうございました。

(2019年1月8日

インタビュー西山勝)



★Welkom in Nagareyama ～オランダ女子車いすバスケットチームを通訳～



2019 国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会に向けオランダ代表チームが来日。2月7日(木)からキッコーマンアリーナで事前キャンプを行いました。期間中 NIFA はチームの通訳を委託され、選手やスタッフをサポートしました。練習中の体育館に常時待機し、必要に応じ会話の仲立ちをしました。

8 日は市役所ロビーで歓迎式典、桃の節句の飾りに彩られた会場が一杯の人で埋まる中、市長他の歓迎スピーチ、オランダチームの挨拶を英語や日本語に通訳、大役を果たしました。9 日は日本代表との親善試合のあと、車いすバスケット体験会、市民とオランダ選手の通訳を通してこの競技への関心、理解を深める一助となりました。担当された栃木孝仁さんは、移動のバスの中での印象を、『みんなとてもフレンドリー、ヘッドコーチは‘水道水’を‘ウオッカ’と言って笑わせていました』と語ってくれました。

今回は総勢 12 名の方が 2 人 1 組になり、7 日間交替で担当しました。世界トップレベルの練習を間近に見ながら、車いすバスケットのスピード、迫りに改めて感心したのではないのでしょうか。皆様お疲れ様でした。



歓迎式典で通訳を担当した
近広さん(中央)と栃木さん(右)

今回は総勢 12 名の方が 2 人 1 組になり、7 日間交替で担当しました。世界トップレベルの練習を間近に見ながら、車いすバスケットのスピード、迫りに改めて感心したのではないのでしょうか。皆様お疲れ様でした。

★日本と台湾に共通するもの、ちがうもの
～異文化交流会～

NIFA は、ここ近年異文化紹介の機会が多くなってきました。昨年 12 月 6 日(木)には県立流山高等学園から台湾について紹介する機会をいただきました。同校では毎年 12 月に 2 年生が台湾に修学旅行に出かけており、その事前学習という位置づけです。

今回のテーマは、「見比べよう！ 発見しよう！ 体験しよう！」。台湾と日本の共通したところ、異なるところをお茶、蹴毬、歌から学ぼうというもの。お茶について、日本の茶道と台湾茶の作法、入れ方や味わいの違い、蹴毬では遊び方、毬の違いを体験、いずれもデモンストレーションのあと、生徒の皆さんがお茶を味わい、毬蹴りを楽しみました。「抹茶は苦味の中に甘みがある、こくがある」「台湾茶はいいにおい、おいしい」「蹴毬は強くけるのが難しかった」など生徒の皆さんの感想を聞きました。また J ポップの人気曲と台湾の歌の聴き比べをし、どちらにもメロディに共通点があることを知りました。

最後に生徒の皆さんが全員で踊ってくれた‘よさこいソーラン’のほとばしる懸命さ、歌ってくれた「翼をください」(一部台湾語)の純粋な声、姿に胸熱くなる思いでした。この交流会には会員の李明勲さんと、二人の台湾出身のご友人、茶道の柴崎幸子さんが講師を務めてくださいました。



「毬子」(蹴毬)に挑戦する生徒達

★世界を身近に感じたのでは
～流山小学校「国際交流会」～ 2月7日



同校恒例の授業、今回も NIFA が紹介した 5 人の講師が 3 年生にお国の様子を語りました。

デトロイトの美しい街並み、風車やチューリップなどオランダの名残を感じる風景の紹介(アメリカのミシガン)、それだけで動物園があるほど多品種の蝶がいること、インド、中国、ヨーロッパ、アフリカの人達が一緒になってジャマイカ人になっていること、旧暦 1 月 3 日はお正月でネズミの結婚式、なので朝寝坊してもいいこと、お年玉の袋が大きいこと(台湾)、英語、タガログ語の他スペインに由来する言葉もあること、トロピカルな食べ物の紹介や子供の人気の遊びにトライ(フィリピン)、ソリのような雪遊び、ボルシチやピロシキなど人気の食べ物の紹介、数や「こんにちは」といったロシア語の練習等々、子供たちの興味を惹くテーマに時間はすぐ過ぎるほど、遠く、違いのある世界をとても身近に感じたのではないのでしょうか。

ロマ雨沼さん(フィリピン、左上)、エカテリーナ足立さん(ロシア、右上)、ジャメイン水澤さん(アメリカ、中央)、サーシャリー シールズさん(ジャマイカ、左下)、李明勲さん(台湾、右下)が講師を務めてくださいました。

☆クリスマスは子供が英語で遊べるよい機会



街もすっかりクリスマス色に染まる12月9日(日)、ここ生涯学習センター(エルズ)の一室ではデコレーションや音楽で華やかな空気が、子供たちを迎えました。

NIFAは生涯学習センターと共催で「英語 de クリスマス」を開催。進行役は斎藤一美さん(エルズの英語講師)、NIFAから7人の外国の方が一緒に会を進めました。

まずは講師とのあいさつ。7人の講師が順に「My name is ○○」という子供たちは「Where are you from?」と質問、その国をボード上の地図で当ててもらいます。そして「こんにちは」をお国の言葉で紹介してもらおうといったやり取りでみんなお近づきになります。この後は講師1人と子供数人のチームに与えられたアイコンを「What is this?」で訊き、答えを英語で言うクイズ、国旗とその国をかたどった絵柄のカードを当てる神経衰弱、折り紙で「7」型のキャンディをたくさん折り、時間内でツリーに吊るす競争等多彩なプログラム。最後は真っ赤な服にプレゼント入りの袋を持ったサンタさんが登場、全員が大きな輪を作って「We wish you a merry Christmas」を歌いながらプレゼントの包みを回し、笛の合図で止まった時にその包みを持っていた子供の物になる、という趣向。2時間のプログラムも短く感じられ、21人の子供たちと講師の歓声や笑顔に、少し早いクリスマスを楽しみました。

この日講師役を引き受けて下さったのは、エミリー・ジョーンズ(米国)さん、レベッカ加藤(ケニア)さん、ロナ雨沼(フィリピン)さん、ウィナンティ・アッビゲリ(インドネシア)さん、エカテリーナ足立(ロシア)さん、エレナ上村(ラトビア)さん、陳セン(中国)さん、みなさんも子供たちと一緒に心から楽しそうでした。

☆中央公民館が小さな地球村に



師走に入った12日(水)、中央公民館の会議室は色々な国や地域の料理、言語で溢れました。この日は毎年恒例の、日本語講座事業部の「お楽しみ会」。1年間日本語を学んできた生徒と講師の方の親睦会。今年はイベント企画グループも準備に加わり、NIFA全体のイベントとして開催しました。参加した皆さんが食べ物を持ち寄るポトラックパーティーです。

精勤賞(ジョエル・チャドレイさん)、永年受講賞(関ロジイさん、渡辺さゆりさん、木原麗華さん)の表彰のあとは歓談とビンゴゲーム。外国の方およそ20名を含め、総勢50名を超える方がお国の料理とおしゃべりに、しばし年末のあわただしさを忘れました。テーブルには日本、中国、韓国、台湾、フィリピン、ベトナム、タイ、インドネシア、イギリス、ロシア、スペインなどの料理やスイーツが所狭しと並び、お味見もお腹と相談しなければならぬほど。参加された方も母国語でのおしゃべりに興じたり、互に通じる言語でお国を紹介し合ったりと、まさに国際交流の場となりました。

NIFAには約300人の会員がいて、その内約10%が外国の方です。日頃の活動でも外国の方と接する機会や外国の方同士が交流する場がもっとあればという課題が、なにかが改善されたのではないのでしょうか。



☆心躍るコンテスト気分

11月17日、ワールドハーモニーは第26回流山市合唱祭に参加、イタリア語の「オー・ソレ・ミオ」、台湾語の「雨夜花(ウヤフェ)」、スペイン語の「コンドルは飛んでいく(EI Condor Pasa)」3曲を披露しました。

市内22団体が参加する演奏には順位付けはないが、講師や参加団体の講評が楽しみの一つです。「ちゃんとナポリ語で歌っている」「高音がバッチリ」、太陽のように輝くオー・ソレ・ミオ、優雅なウヤフェ、壮大なEI Condor Pasa「選曲のバランスがいい」、「楽しそう」、「衣装が綺麗」など、今年も好評でした。





♪ 暮らしやすいコミュニティの一助に ♪

外国語支援事業部

災害に遭った時の備えについて、HP や冊子の一部を紹介します。今回は英語です。

★TO PREVENT FIRES AFTER AN EARTHQUAKE

★Prepare equipment to extinguish fires

Water helps extinguish almost any fires, except oil fires. You need to keep water around you always, in a bath tub or a washing machine, for example.

A fire extinguisher is indispensable. You can use it in the cases where water would spread the fire such as those involving kerosene heaters, cooking oil and such.

There are three types of fire extinguishers, namely: the powder type, the liquid and the foam type. You must buy one with a government seal of approval on it.

★地震後の火災発生を防ぐために

★消火のための器具を備えておこう

水は、油火災を除くと、ほとんどどのような火災にも消火に役立ちます。

例えば浴槽や洗濯機に入れておくなど、常時身の回りに溜めておく必要があります。

消火器は必要不可欠です。水を使うと、石油ストーブや料理用の油などから発生した

火災は火が広がるので、消火器が役立ちます。

消火器には、粉末、液体、泡の三つのタイプがあります。

公の承認シールの付いている消火器を購入する必要があります。



会員の声

日本が好き

キン・イーチャンさん (日本語講座事業部)

わたしはミャンマーから来ました。ミャンマーは仏教徒が多く、寺院が多いです。ミャンマーは冬でも昼間は30度近くなります。私の住いたところは電車やバスはすくなくバイクが多いです。

日本に来て一番驚いたのが満開の桜が美しかったことです。日本人は相手のことをよく考えてくれること、優しいこと、丁寧に対応してくれるので仕事しやすいです。日本は電車も町も静かです。道路や駅のお手洗いさえきれいなのが感心します。安全なので女性でも安心して暮らせます。会社では仕事が速いし、他人に迷惑をかけず、感情的にならず、相手が間違っても非難せず穏やかに指摘してくれます。こうしたマナーを身につけたいと思います。

しかし私にとって日本人の友達を作るのは難しいです。日本での生活はミャンマーでの生活と大いに違います。日本は買い物も交通も便利で安全ですが、日本語会話が難しい私にとっては仕事でのストレスが多かったです。毎日緊張の連続でしたが、それも慣れてきました。いつもまわりにたすけてもらうばかりで私も力になれるといいなあとと思います。会社の旅行や運動会、健康診断など福利厚生が充実していて日本で仕事してよかったと思います。

祖国とまったく違う世界で生活していることは面白いです。帰国したら日本の生活が夢だったのではないかと思うかもしれません。



Pyin Oo Lwin という町にある MaHa Ant Htoo Kan Thar 寺院

レポート:

創立30周年記念事業企画会議の報告 (第2及び3回)

1. 事業予算は、積立金、将来への備え、収支規模を勘案した範囲とする
この中で記念誌制作・印刷、記念式典、イベントに要する費用を賄う
2. 会員、外部の関係者を招いた記念式典と市民向けのイベントを同日開催する
記念式典、イベントの内容は次回に検討する

イベント予告:

子供向け文化交流プログラム
3月21日(木 祝日)
中央公民館まつり参加イベント
詳しくは後日配布のチラシをご覧ください



編集後記:

毎回編集を行いながら、NIFAの活動の多様さを感じていました。来年度も。

広報部長: 小谷良美

部員: 西山勝、李明勲、谷口宏美、伊藤恵佑